

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 米大統領の英語 (1)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後藤 寛

Trump 米大統領は Twitter 上の自身の Blog で連日、刻々と全世界に情報を流している。型破りの大統領で、彼の英語は俗語・卑語を用いた粗野でぞんざいな言葉使いのものが多くあり参考となる。ここ 2 週間ほどはたまたま、そのスタイルのものは見かけないが、彼の特異な時事英文例からその語釈を試みることにしたい〔下線は筆者〕。

① Thank you @WVGovernor Jim Justice. It was my great honor to be with the amazing people of West Virginia today! #MAGA (April 5, 2018)

▲Trump 大統領はウエストバージニア州での集会に参加したのであろう。その後知事の Jim Justice に感謝している内容である。

太線の語 people は韻文・聖書用語としてのプラス α Basic 語である。*people* とイタリック体書きにしておくが、これは「平民」の意味として、おそらく Basic 語 plane (平面のこと) ととも根元ではつながっていると考えられる。さらに語頭子音 [p] → [f] となった Basic 語 flat ととも paronym (同系語) の関係にある。

下線の語 MAGA は Trump 大統領が Twitter 上で Make America Great Again. の略として、文末でしばしば用いる決め言葉であるので、その例の 1 つとして提示した。これは [má:gə], [má:ɡə] となるが、最近では Keep America Great. が使われもする。これだと KAG [kæg] ということになる。

文末で感嘆符(exclamation mark)の(!)を付しているが、これも彼が頻繁に用いる特徴的なもので、常に自信に満ちた意気揚々とした彼の性格が見え隠れする。ここで引き合いに出す例のうち、③以外のすべてにこの感嘆符が見られる。感嘆符(!)は喜びの叫び声のラテン語 Io (ワーッ) に由来すると言われている。I と o を上下に並べて記されたのが元とされ、それが ! という記号になった。

② Mike Pompeo met with Kim Jong Un in North Korea last week. Meeting went very smoothly and a good relationship was formed. Details of Summit are being worked out now. Denuclearization will be a great thing for World, but also for North Korea! (April 18, 2018)

▲Pompeo 米 국무長官が金正恩朝鮮労働党委員長と会い、米朝首脳会談による核廃絶の問題処理が世界と朝鮮にとり重要と示唆したという内容である。

最初の 4 つの下線の語で Meeting, Summit, Denuclearization, World とそれぞれ初頭文字が大文字書きとされているが、Trump 大統領はよくこういう書き方をする。それぞれの語の前に定冠詞の The が必要であるが、それが省略されている。これも彼のスタイルである。

最後の下線語が but であるが、語法的にこれは ... will be a great thing not only for the World, but also ... と考えればよい。この場合 not only がないが、こういう言い方もできよう。

③ Numerous countries are being considered for the MEETING, but would Peace House/Freedom House, on the border of North & South Korea, be a more Representative, Important and Lasting site than a third party country? Just asking. (April 30, 2018)

▲米朝首脳会談にはいくつもの場所が考えられ、南北朝鮮半島の軍事境界線上の板門店にある「平和の家」「自由の家」が第三国よりも適当であろうか？と Trump 大統領が言っている内容で、これはテレビニュースでも大きく取り上げられた。

太線の語 *considered* には Basic 語 **star** (星・星座) の意味が背景にある。*consider* は morpheme (形態素) として {con(= with) + sider (= star)} と要素分解できるが、「星を見て共に考えること」の意味ということになる。語根部 *sider* は PIE : Proto Indo-European (印欧祖語) の etymon (推定語根音形) である /SED/ に由来するとされている。root sense (原義) は「座って動かないこと」のように考えればよい。Basic 語の **desire, seat, side, etc.** もすべて同系 paronym となるし、un-Basic 語 (非 Basic 語) では *disaster* (災害) などともそうである。*disaster* は {dis (= away) + aster (= star)} で、災害や天変地異は神の業、そして星の動きと関わっているという考え方である。

さらに実は文中の2つ目の太線の語 *site* (場所) も同系となる。いずれも星とともに考えたり、それを欲しがったり、その欠如の意味があることになる。他に多くの同系語が英語となった [拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(63)でその具体例を示している]。

最初の下線の語 **MEETING** が大文字書き、次の下線部の **Peace House/Freedom House** の前でのやはり **the** の省略、また、下線で示した **&** 記号、さらに **Representative, Important, Lasting** の3語の語頭文字の大文字書きなど、すべて Trump 大統領の書き方スタイルである。**&** は **and** の意味であるが、元々は **ampersand** が略されたものである。記号としての **&** は、たとえばラテン語の略に **etc.** (< **et cetera** = **and so on**) があるが、この **et** をデザイン的にくずして書いたものと言われている。推測であるが、**Et** → **℥** (?) → **&** のようになったと考えればよかろう。なお、3つの語の頭文字の大文字化は彼が好んで用いるもので強調のニュアンスが出ることとなる。

最後の下線の語 **just** は Basic 語 **judge** などとも同系で、「指や口を用いて示すこと」が root sense であり、これの同系 paronym も英語に実に多い [これも同上拙著、第二部、例(46)で具体例はいくつも提示してある]。ここでは **Just asking**. 「ちょっと聞いてみただけ」と書かれているが、これは理由を聞かれたりした場合などに頻繁に用いられる慣用的な言い方で、英語としてきわめて自然である。

④ **As everybody is aware, the past Administration has long been asking for three hostages to be released from a North Korea Labor camp, but to no avail. Stay tuned!** (May 3, 2018)

▲Obama 前大統領政権下で実現しなかった北朝鮮に拘留されている3人の米人の開放を、Trump 大統領は自分が実現させると示唆する内容である。

最初の下線の語 *hostages* (人質) の同系語にはプラス α Basic 語 *host* [寄生動植物の宿主 (しゅくしゅ)] がある。これの対語が un-Basic 語 *parasite* (寄生虫) [= *guest*] であるが、一方で un-Basic 語 *host* (主人) は Basic 語 **hospital**、プラス α Basic 語 *hotel* と同系である [同上拙著、第二部、例(122)で扱っている]。この「主人」の意味の *host* はプラス α Basic 語 *guest* (客) と対語ともなる (*guest* があれば *host* がある)。*guest* は次の⑤にも出てくる。実は *guest* も *host* も同系語で、PIE etymon は /GHOSTIS/ が定説となっている。いずれにせよ、*hostage* にはその背景に主人と客の関係がある。

2つ目の太線の語 *tuned* の同系語を Basic 語に求めれば **attention** などいくつもあ
る [これも同上拙著、第二部、例(19)で具体的に示している]。PIE の語根音形は /TEN/

で、元来は「太鼓に張った皮、太鼓の音」が root sense だとされているが、これは「太鼓の音に耳を傾けること」にもなる。また、文中での Stay tuned ! はラジオ・テレビなどの放送でアナウンサーが「チャンネルを変えず、じっと聴いて欲しい」の意味でよく言う慣用的なものであるが、ここでは「注目しておいて欲しい」ぐらいの意味となる。

⑤ Secretary Pompeo and his “guests” will be landing at Andrews Air Force Base at 2:00 A.M. in the morning. I will be there to greet them. Very exciting ! (May 9, 2018)

▲上の④と関連するもので、Pompeo 国務長官と拘留されていた 3 人の米人が、北朝鮮から Washington D.C.に近い Andrews 空軍基地に到着するのを Trump 大統領みずからが出迎えるという内容である。

最初の太線の語 guest は上の④ですでに触れたが、ここでは特別に引用符を付した “guests” としている点は興味深い。引用符(quotation mark)に関し付け加えておくと、この符号は 18 世紀末までは使われなかったようである。1611 年刊の *The Authorized Version* (欽定訳聖書)には今日の版でも引用符は 1 つもない。Cambridge Univ.版旧約・新約聖書 BBE : *The Bible in Basic English* (1949 年刊)にも引用符はまったく使われないが、それでも文がよくわかるよう工夫が施されている。

次の下線の記号 A.M.は正式な文書などでは小文字書きの a.m.が本来で、大文字書きにはしない。p.m.もちろん同様である。英語圏で掲示板などには大文字書きはよく見かけるが、便宜的な表記法である。

最後の太線の語 greet (挨拶する)の原義(root sense)は目下あまり定かではない感じであるが、どうやら元来は PIE etymon の /GHER/「取り囲むこと」の意味から来ているらしい。そうであれば Basic 語の **garden, curtain** とも根元ではつながっている同系語とも考えられる。中世の時代に入ると宮廷の中庭(プラス α Basic 語では *court*)が礼儀作法の場となり、ここでにぎやかに挨拶が交わされた。さらにはやはりプラス α Basic 語の *chorus* (合唱)、また un-Basic 語の *choir* (合唱団・舞踏団)、*courtesy* (礼儀)、*courteous* (礼儀正しい)等々、一連の語がすべて一括的に見えてくる〔同上拙著、第二部、例(114)でも解説している〕。

⑥ The highly anticipated meeting between Kim Jong Un and myself will take place in Singapore on June 12th. We will both try to make it a very special moment for World Peace ! (May 10, 2018)

▲金正恩委員長と Trump 大統領が 6 月 12 に首脳会談をシンガポールで行うこととなったという内容の文である。これは大ニュースとなり一気に全世界に伝わった。

最初の太線の語 anticipated は{anti (= before) + cipat (= to take) + ed}で、cipat の部分の PIE etymon は/KAP/「獲物の頭を捕まえること」とされている。Basic 語の同系語 **chief, keep, have, receipt**, etc.、プラス α Basic 語の同系語 *purchase* など多くの英語が誕生した〔同上拙著、第二部、例(2)で詳しく説いている〕。

次の太線の Singapore は{singa (= *lion*) + pore (= town)}として知られているが (*lion* 「ライオン」は韻文・聖書用語としてのプラス α Basic 語である)、一般に国名・地名・人名もそれなりの由来をもっているので今後、onomastic (固有名詞語彙学的)に toponym (固有名詞語彙)がもっと追究されてよい。

⑦ Big week next week when the American Embassy in Israel will be moved to Jerusalem. Congratulations to all ! (May 11, 2018)

▲これも大ニュースで、イスラエルのアメリカ大使館がエルサレムに移されるという内容であり、本稿執筆の現時点 (5 月 14 日現在)ではすでに実行され多数の死傷者

を出していると報道されている。Trump 大統領は以前から ‘Jerusalem is the capital of Israel!’ 「エルサレムはイスラエルの首都だ！」と言いつつ切ってきた。

最初の波線の語 *Embassy* はプラス α Basic 語で、*embassy* とイタリック体としても示しておくが、これは初めから「大使館」の意味ではもちろんなく、もっと簡素な意味から来ているわけで PIE etymon の /AMBHI/ (= round) に由来するとされている。「周り」の意味である。そして同時に、PIE etymon の /AG/ からでもあるらしい。これなら見えてくる。プラス α Basic 語 *agency* (代理店) が同系であることがわかる。/g/ は [k] ([g] → [k]) の音声ともなったのであり、形容詞のプラス α Basic 語 *active* (活動的な) などを類推することは容易である。また un-Basic 語の *actual* (実際上の) なども想起される。ここまでくれば本体の Basic 語からは **act** を導き出すことには何ら難はない〔これも同上拙著、第二部、例(119)で扱っている〕。発生源としての PIE etymon からの語義の追究には常に発見があり、その連続となる。

つづいて次の2つの太線の国名・地名 *Israel, Jerusalem* はヘブライ語からであることはわかる。ヘブライ語の名前は日本語のように何らかの意味をもっているとされている。*Israel* は「神と争いをする事」の意味であることは定説となっているが、*Jerusalem* は目下のところ定説までには至っていないようでもある。それでも、「平和の基盤・基礎」のような意味が通説となっている。

最後の太線の語 *congratulations* の語根部 *grat* は「喜ぶこと」を意味する。{con (= with) + gratul (= pleasure) + ation + s (= expansion)}と要素分解される。複数形語尾の *s* は広がり・連続・展開の意味をもつ。ついでながら、*congratulations* における *gratul* の *tul* の部分の音は辞書的な [tʃəl] ではなく、[dʒəl] と有声音化するのが自然な音である。[tʃəl] はネイティブからすると、抵抗感をもつようである。アメリカ留学中に筆者はこれをアメリカ人の友人に確かめたことを思い起こすが、[tʃəl] は堅苦しく響き自然でない感じである。

⑧ North Korea has announced that they will dismantle Nuclear Test Site this month, ahead of the big Summit Meeting on June 12th. Thank you, a very smart and gracious gesture! (May 13, 2018)

▲北朝鮮が米朝首脳会談の行われる6月12日の前の5月中に核実験場を廃棄すると言いつつ、Trump 大統領がこれに満足している内容である。

最初の波線の語 *dismantle* は {dis (= away) + mantle} であるが、*mantle* と同系の Basic 語はさしあたってみあたらない。しかし、カタカナ日本語の「マント」を想起すればわかる。意味理解上で、よりどころとする適当な Basic が見当たらない場合は、カタカナ日本語をあてがってみると大抵の場合は類推が可能である。PIE の推定語根である etymon を振り出しにした同系語の検索を、語根照合法 (etymon collation : EC 法) と独自に筆者は呼んでいるが、日本語に多いカタカナ英語を想起しそれを媒介とするのも1つの手法となる。*mantle* 「マント」は覆うものである。

次の下線部の *Nuclear Test Site* の前にも定冠詞の *the* が省略されているが、これは上の②で Trump 大統領の書き方スタイルの1つとして、すでに確認した。

次の太線の語 *Summit* はやはり②で出てきたものであるが、これはプラス α Basic 語 *sum* (合計) と同系である。次の *gracious* は上の⑦での *congratulations* と同系で、語根部の <gra + 子音> がしばしば「有難いこと、望ましいこと、嬉しいこと」の意味となることを音感からも察知するのが、まさに語感そのものとなる。

最後の太線の語 *gesture* はこの場合は、いわゆる日本語の外面的な「ジェスチャー」の語感ではなく、内面的な心の中でのそれで、感情移入的な「意思表示」の意味である。この PIE etymon は異形の1つとして /GEST/ とされるが、「体ごと運んでいくこと」

のような意味である。Basic 語の **digestion** や **suggestion** が同系である。また、un-Basic 語の gerund (動名詞) などもこの系統である。gerund は動詞の語尾に-ing 接辞を付すことで、動詞の機能を名詞の機能へとそのまま運ぶことになるわけである。Trump 大統領の言説は、まさに彼の gesture によるものに思えてならない[この gesture なども同上拙著、第二部、例(139)で取り上げている]。

いずれにせよ、一連のこの米朝関係、今後どう展開するであろうか？

(2018.05.14)